

鼠の智慧

平岩繁治

ある家の天井の上に、親子の鼠が棲んで居ました
とさ。ある晩のこと、子鼠が親鼠に向つて

『おつ母さん、どうか油をなめさせて下さい』
といひますから、親鼠は、そつと勝手にしのんで
参りました所が、宵にかみさんが、天麩羅をあ
げた油が、少し許り瓶に入つて残つて居ます、こ
れは、よいものがあつたといふので、すぐ口をつ
つこまうとしましたが、さて困つたことには、瓶
の口が小さくつて、中々嘴が這入らない、どう
しようと思つて、いろ／＼玉夫した末、中々甘い
ことを考へ出した、親鼠はくるりと、後向いて、
細長い尾を、瓶の口からつっこんで、さてそれを
引き出しては、身體の毛にぬりつけ何度も／＼や

つて、身體の毛を丸で油で浸して仕舞つて、さて
天井に返つて行つて、子鼠になめさせましたとさ。

小供の夏休み

ふたふく

皆さん、夏休み中には種々面白いことがあつた
でせう。私も休みには何か面白いことをして遊ば
ふと思ひましたが、少し急そぐ用事があつた爲め
遊び所ではなく中々苦しい休みでした。で休み中
のことは何も話すことがありませんから、私の知
つてゐる小供のお話を取次ぎませう。さうして
この小供は東京市内のある小學校の生徒でありま
す。讀んで御覽ん中には面白いことがありますよ
一、私は八月五日午後六時から汽車に乗つて横あ
みから田舎に行きました。いなかには小さい川